

学校自慢

ひと、つながり

旭市立中央小学校長 いしみ たかお 石見 孝男



本校は市の中心部にあり、児童678名が在籍する周辺市町の中でも比較的規模の大きい学校である。たくさんの子供たちが集う本校の特長を生かし「みんなで学び みんなが育つ」を理念とし実践を重ねている。子供たちを「みんなで育てる」ために、本校に関わっている「ひと、つながり」こそが学校自慢である。一端ではあるがご紹介したい。

1 職員の士気

今般の臨時休業ではワークシートづくりに全職員で取り組んだ。一週間分の学習予定表の添付、関連動画のQRコードによる明示に加え、5月早々には職員自らが60本以上の動画をYouTubeにアップした。「担任が映るから子供がやる気になった」といった声も寄せられた。制作の過程では、ベテランならではの教材観と、若手のアイデアが融合し、互いに高め合う研修の機会となった。

また、子供を取り巻く課題が複雑化、多様化している現況の中、「仲間を一人にしない」という意識も強い。子供サポート委員会での情報共有、担任外による学級支援、関係者によるケース会議の随時開催と保護者面談など、子供にとっての最善を「つながり」の中で目指そうという意気込みを感じる。

2 PTA活動の主体性

本部と8つの専門部で組織されるPTA。運動会の場所取りでは、課題が見られた先着順から抽選方式に改めた本部役員のリーダーシップ。一家庭4㎡以内に制限した上で、あらゆるケースを想定し、抽選日の流れをフローチャートにまとめた緻密さには舌を巻く。

また、通称「母読」による毎週の読み聞か

せ。本の選び方や読み方のポイント、本の持ち方・めくり方などを丁寧にまとめたマニュアル『HAHADOKU BOOK』は、素人の域を超える。卒業式では、PTA会長が祝辞としてボブ・ディランの『はじまりの日』を読み聞かせ、6年間で締めくくった。

その他にも、行事の度に望遠レンズが並ぶ広報部、会員の子育てにまつわるエッセイをとりまとめる文化部等々。個々の意識の高さと相互のつながりが活動の質を高めている。

3 地域の支え

動物ふれあい体験、サツマイモ栽培、花壇の整備など、近隣の県立旭農業高校とのお付き合いは長い。とりわけ、農業の盛んな本市であってもほとんどが経験のない田植えや稲刈り体験は、地域の風物詩として毎年のように報道されている。収穫したお米が、高校生の手によって津波で被災された市民に贈られていることも意義深い。

また、6年生の総合学習では、地域防災や学区の歴史など地域にまつわるテーマを毎年設定し、パンフレット等により地域の魅力として発信してきた。昨年度は、本市の豊かな農水産物を使った料理を考え、レシピ集にまとめて道の駅などで配布した。これらの活動は、官・民・学が一体となって設立された「旭・学び助成金（旭3S）」からの支援と助言のおかげである。

ほかにも、狭隘で交通量が多い学校周辺の交差点に毎朝立ってくださるボランティア団体、影絵クラブを指導してくださるグループ、昔遊びを共に楽しんでくださる老人会等支えてくださる多くの「ひと」に囲まれている。